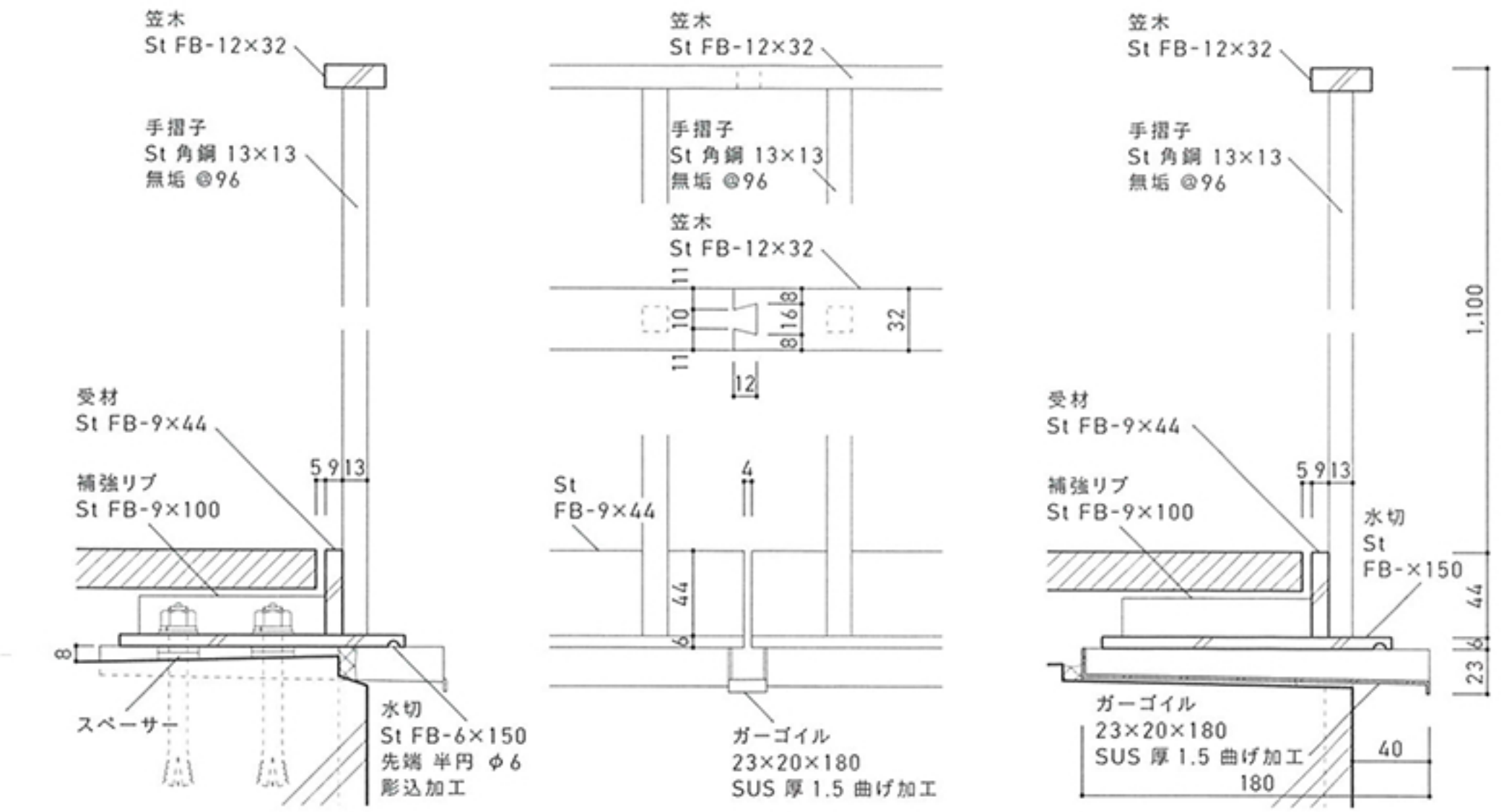


性格の異なる 2種類の 鋼製手摺

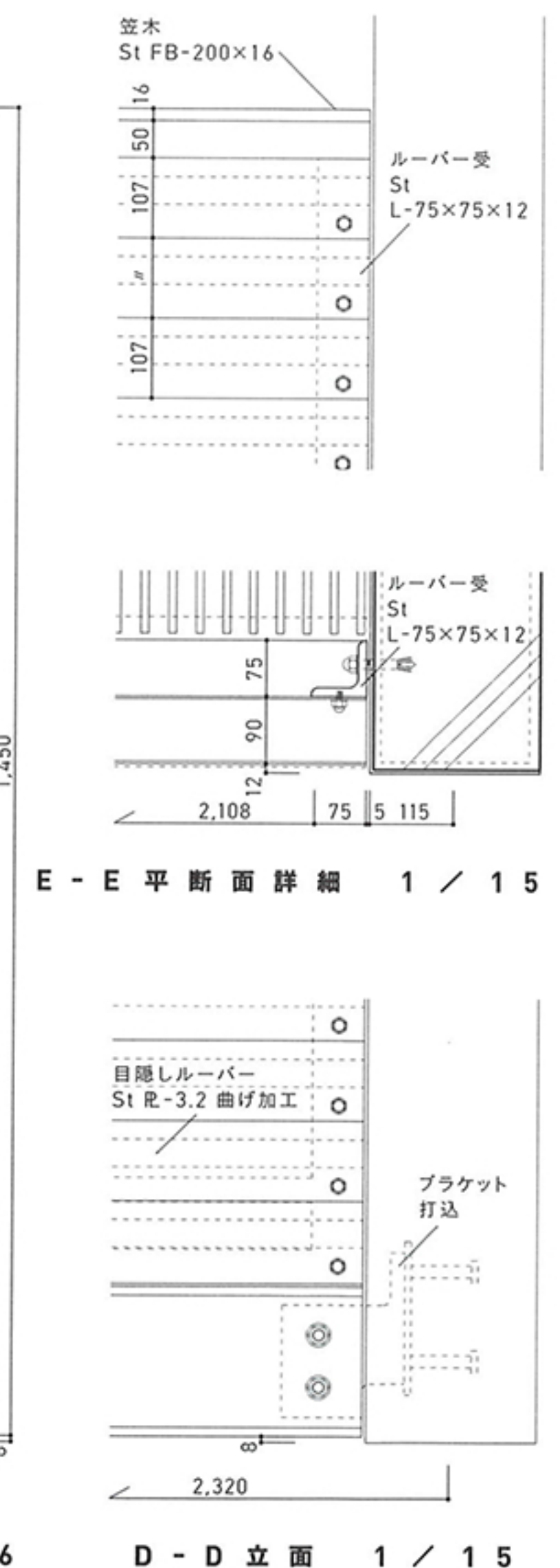
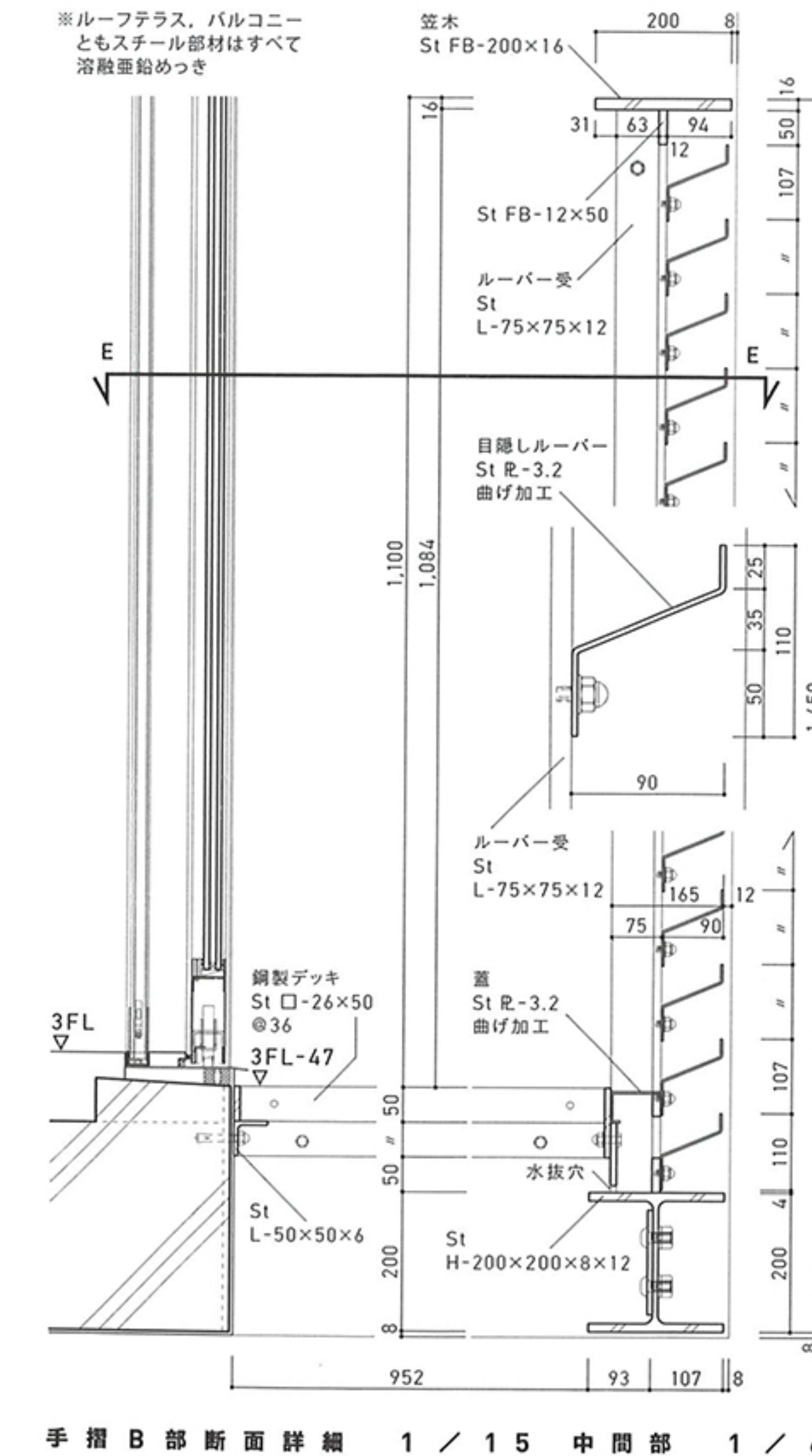
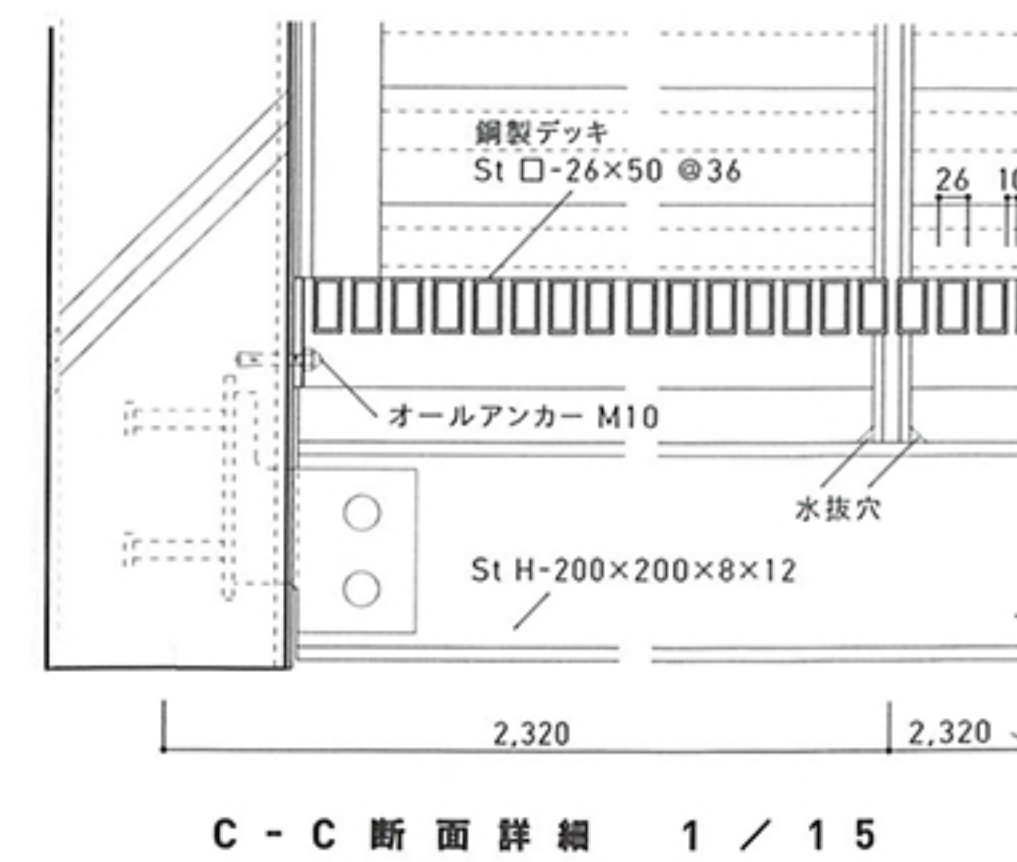
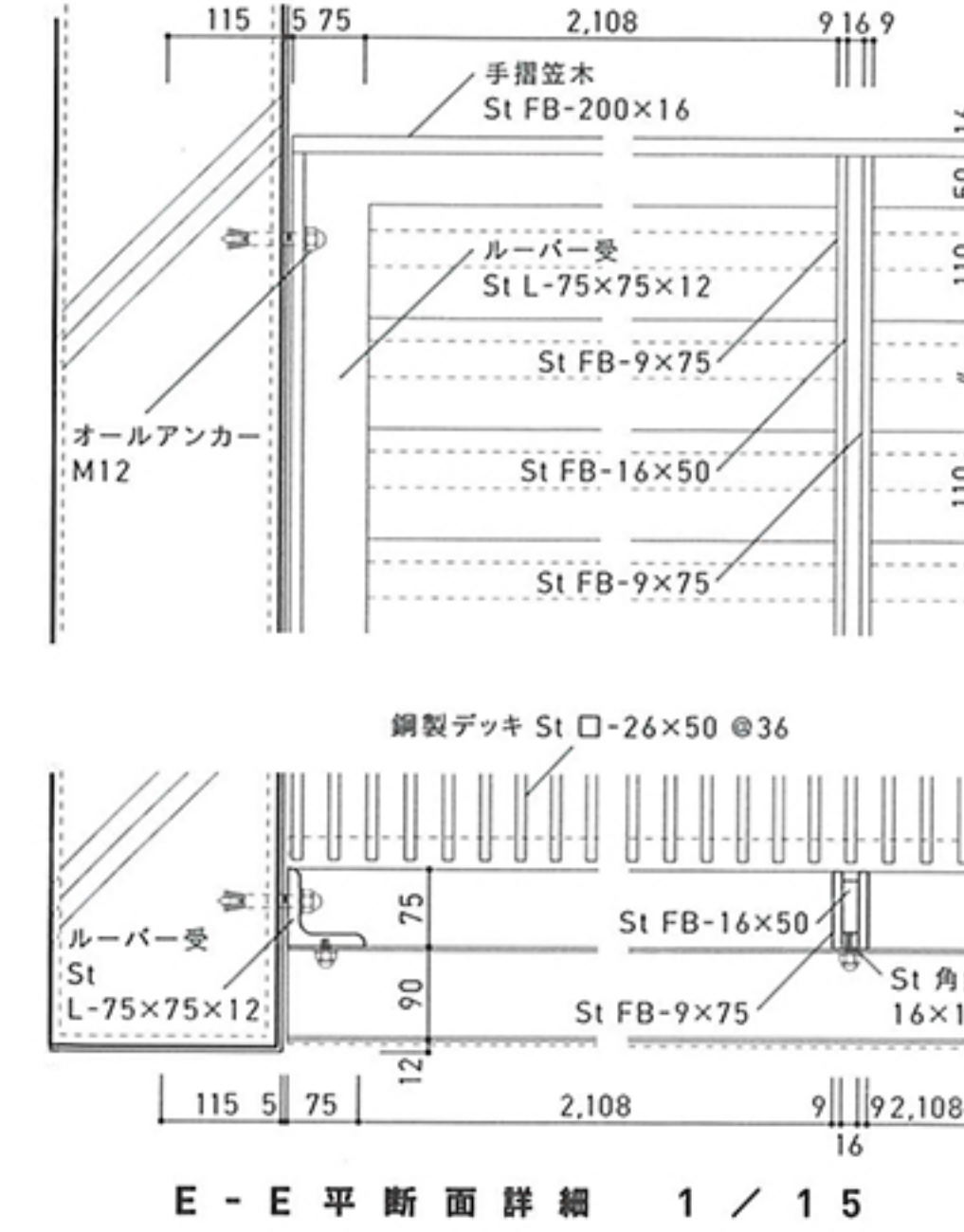
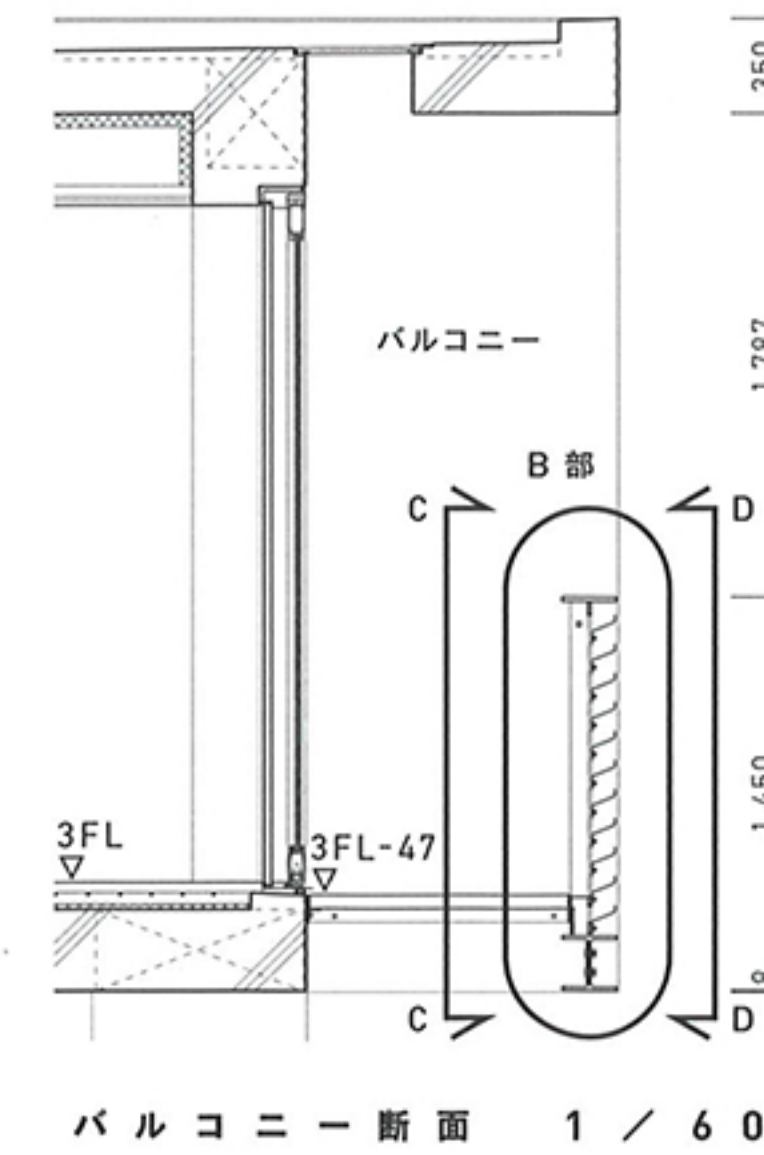
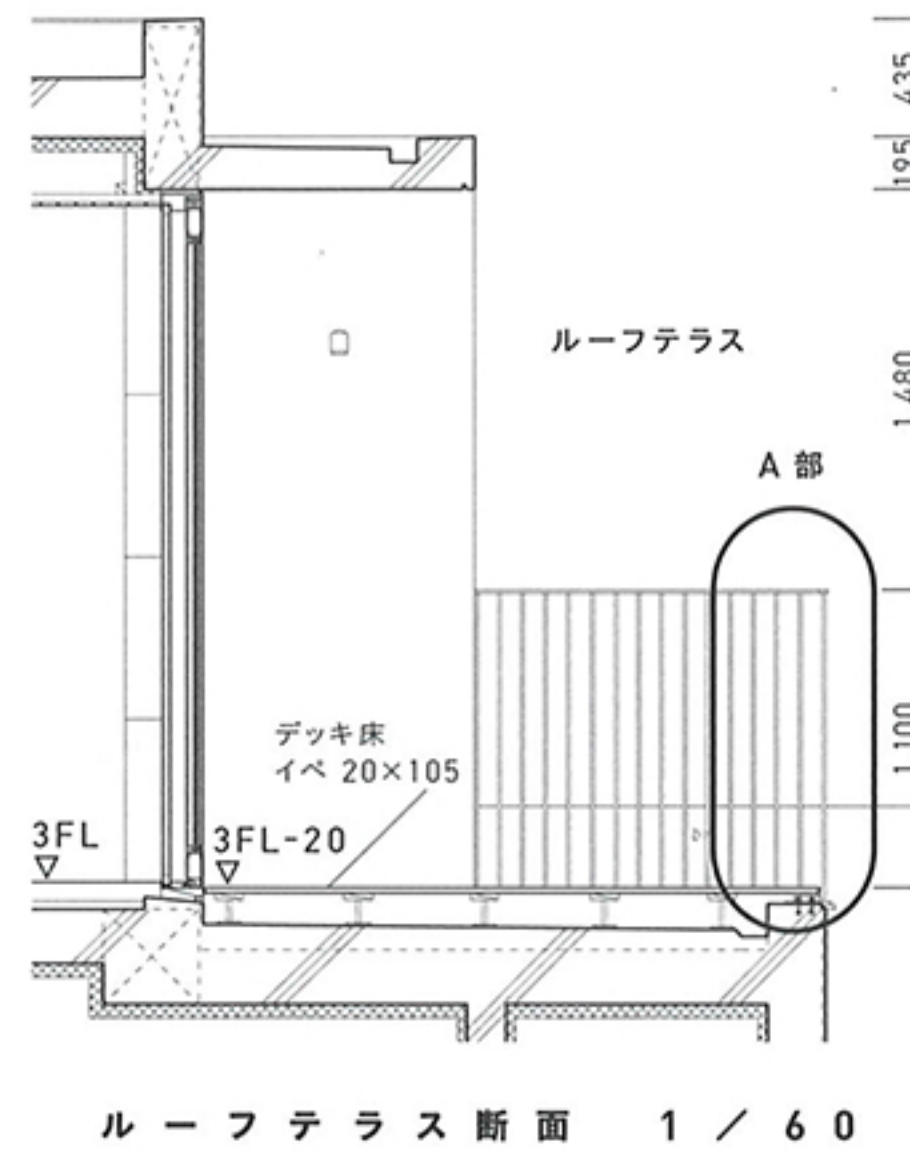
IN BETWEEN
矢板建築設計研究所
IN BETWEEN
by Yaita and Associates



手摺 A 部 断面詳細 1 / 6 手摺ジョイント部 (上), ガーゴイル部 断面詳細 1 / 6 ガーゴイル立面 (下) 1 / 6 断面詳細 1 / 6

二つの手摺は同じ階にありながら、まったく異なるデザインである。ルーフトラスの手摺は安全性を考慮しつつ、透過性を確保するという目的で、13角という細いスチールの角棒を100ピッチで連続させたものである。こうした場合、どう連結させるかが問題となるが、笠木にあっては継手をつくり、しっかりと接続し、下部にあってはFBを4mmの隙間をあげ、その下に小さなガーゴイルを設け、壁が汚れないよう配慮してつないだ。もう一つは筒形の部屋の先端に置かれた手摺であり、求められた機能は、通りから見上げて室内が見えないことと、通風を十分に確保するということであった。この手摺は長さ4mあるので、両端と中心の3点支持でも風圧に十分に耐えられるよう、部材は比較的大きな部材を用い、頑丈に構成した。(矢板久明)

施工：渡辺工務店
金属工事：サスプロ
左官工事：大道左官
構造：RC造
規模：地上3階
竣工：2021年4月
所在：東京都大田区
撮影：小川重雄，矢板建築設計研究所 (p67)



ステンレス下地で 構成された 薄くて軽快な 手摺

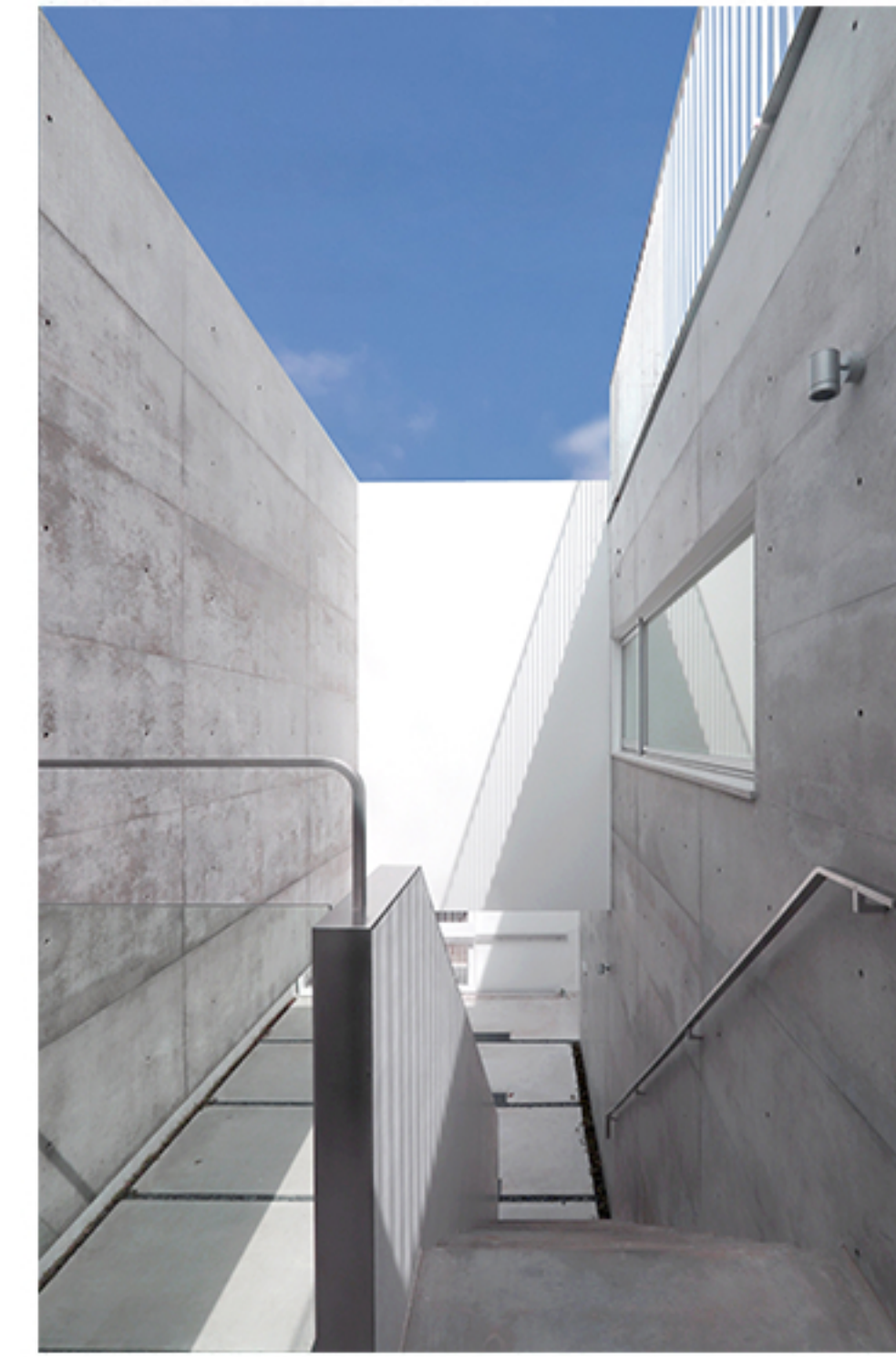
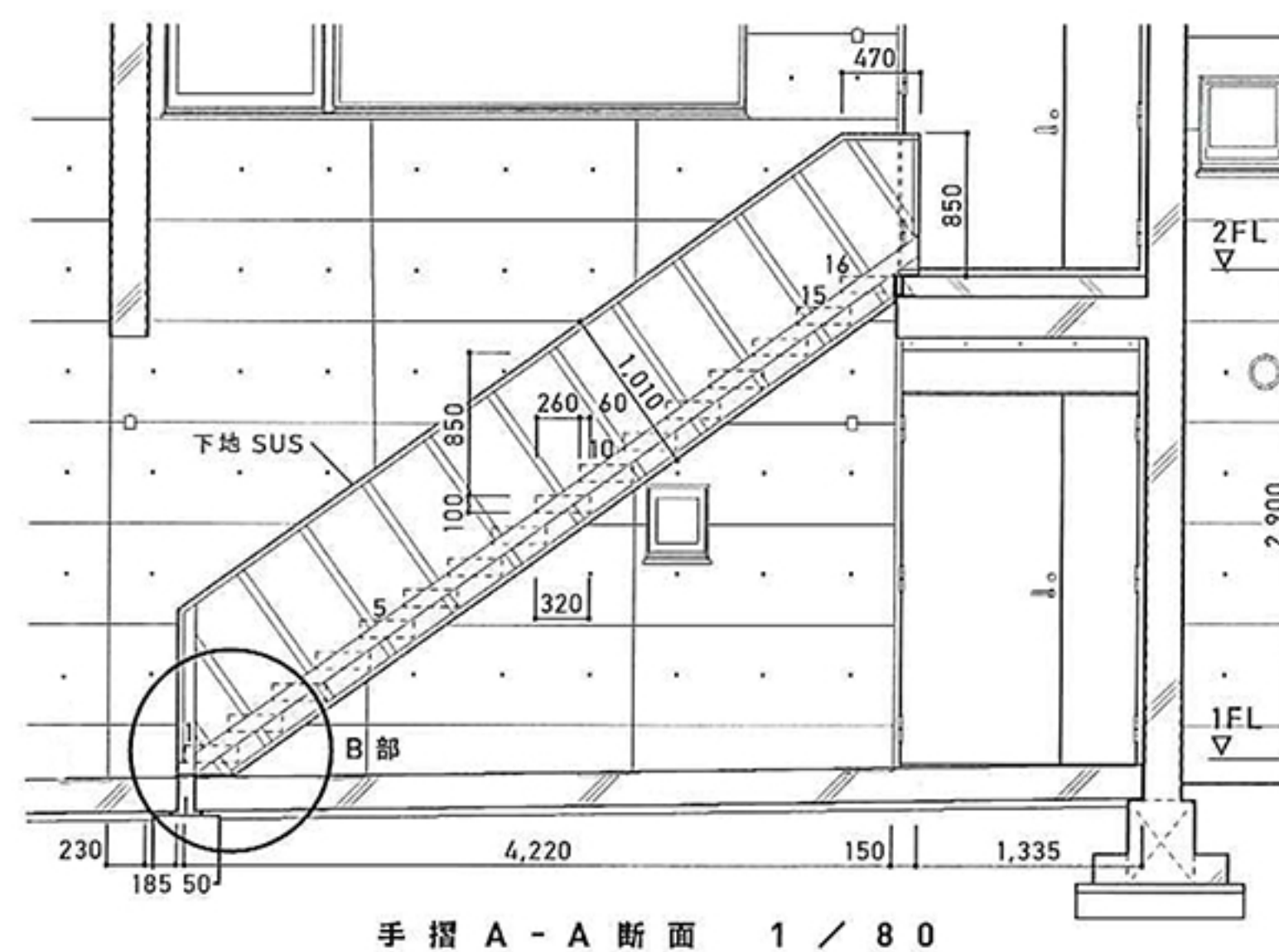
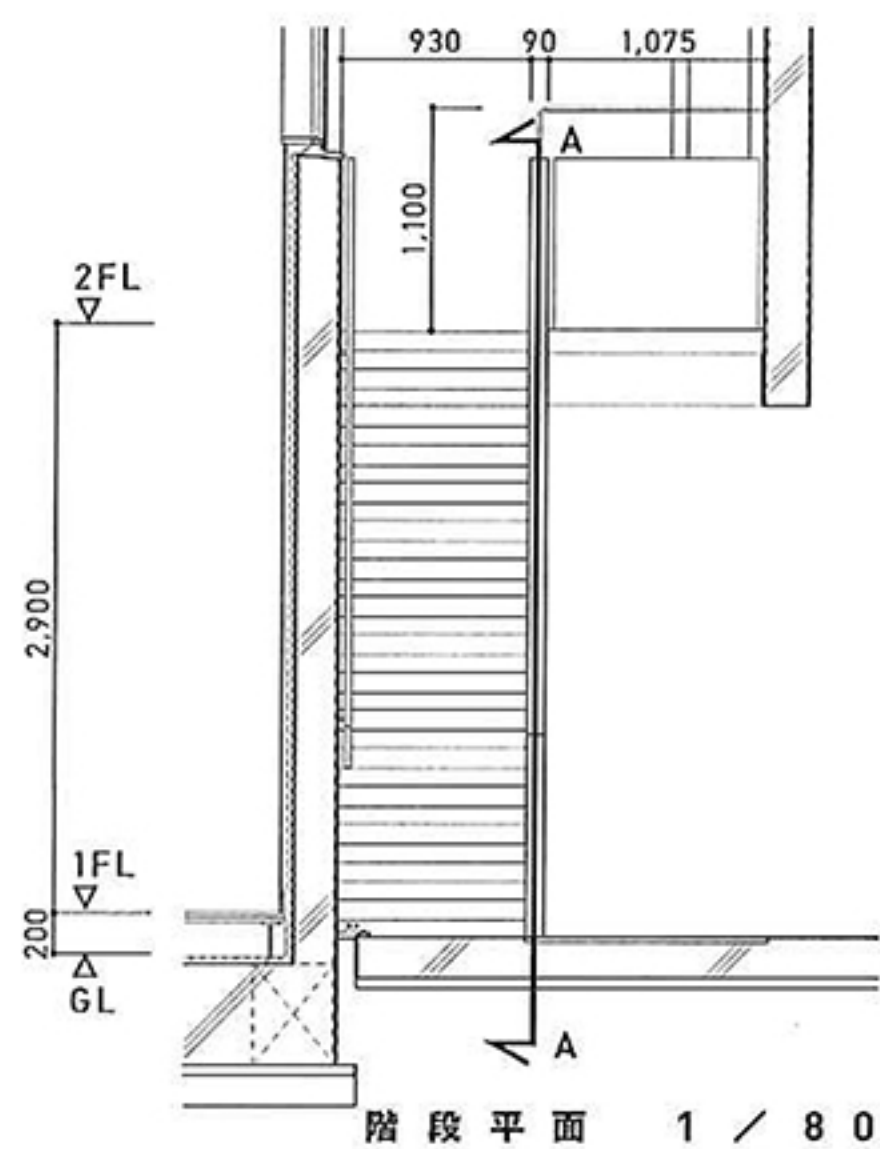
IN BETWEEN

矢板建築設計研究所

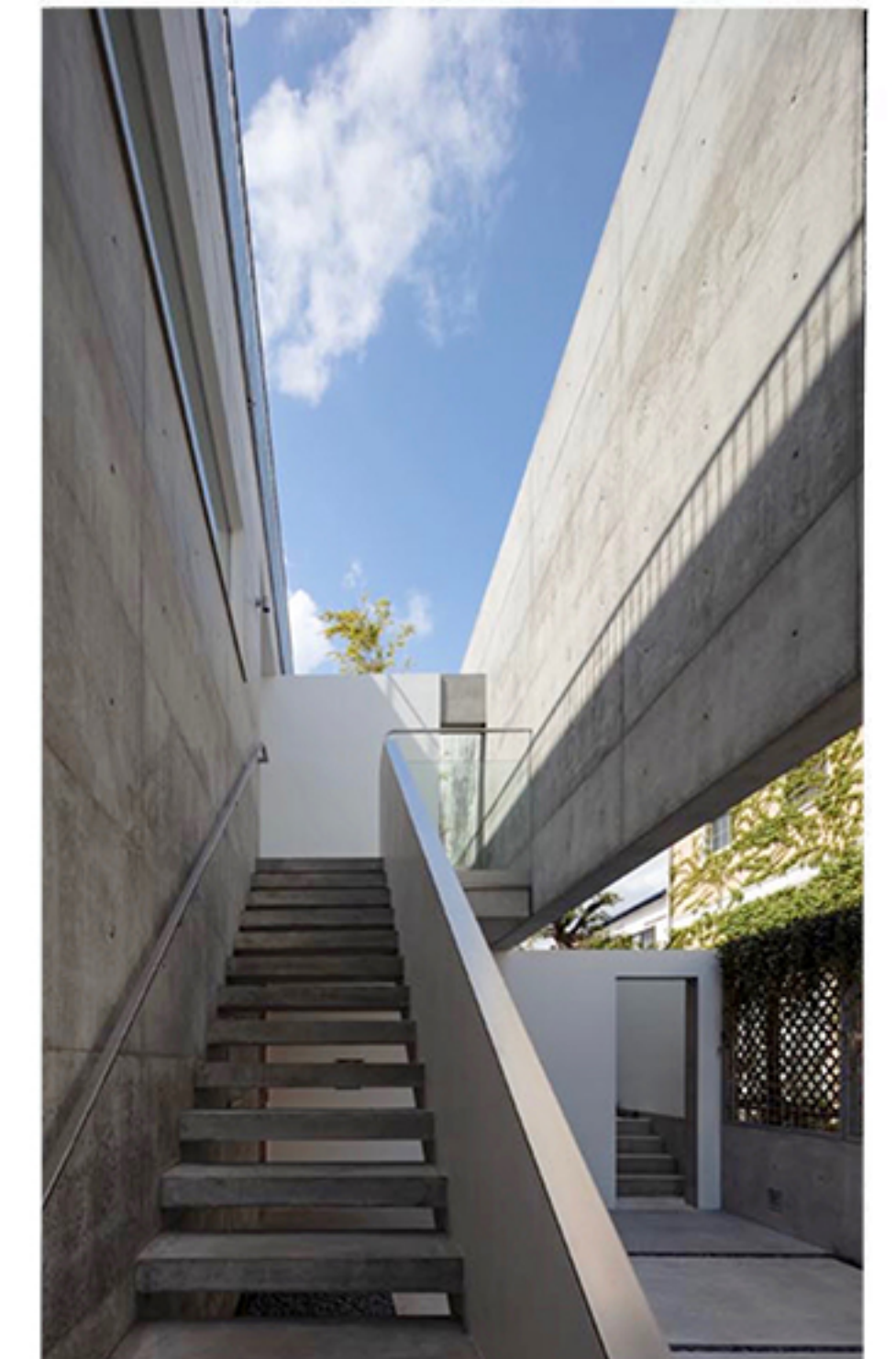
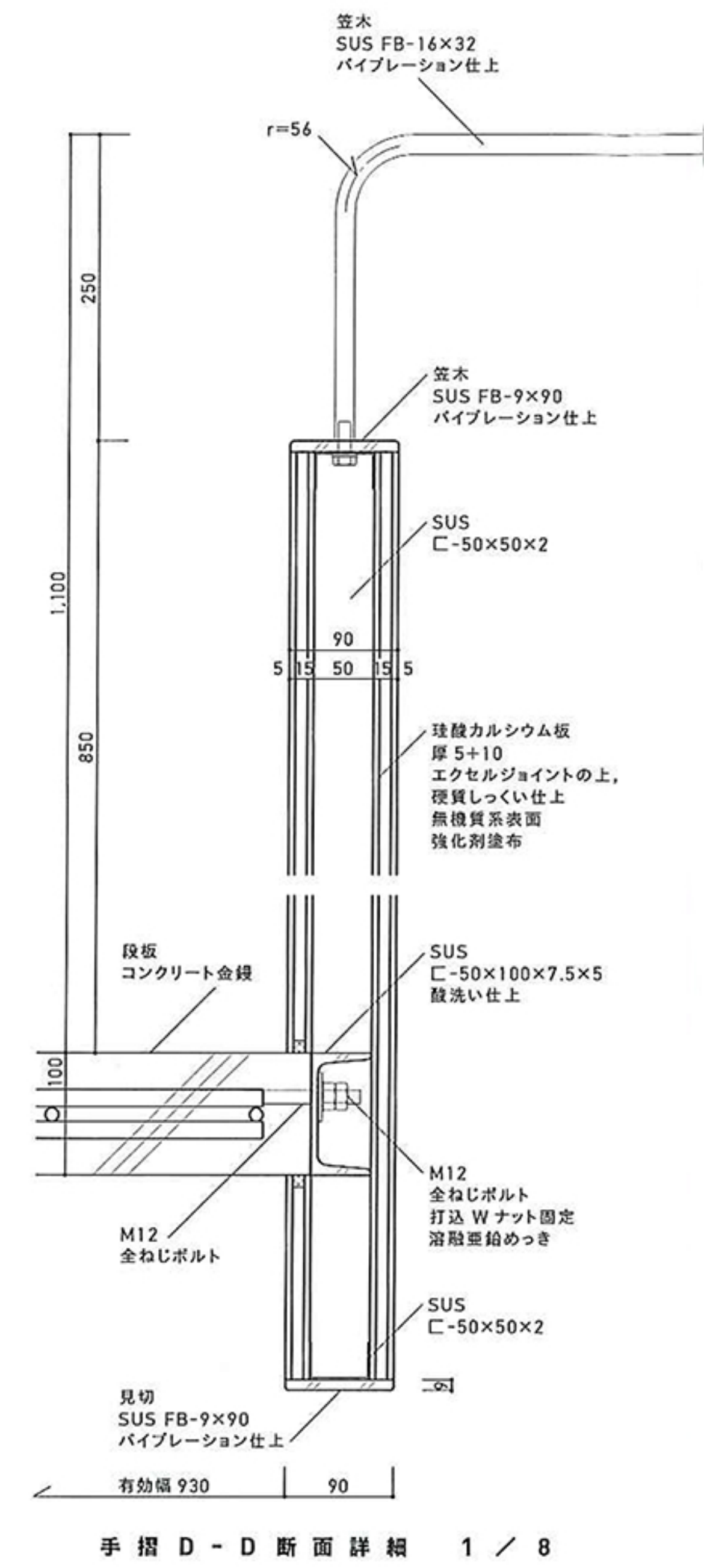
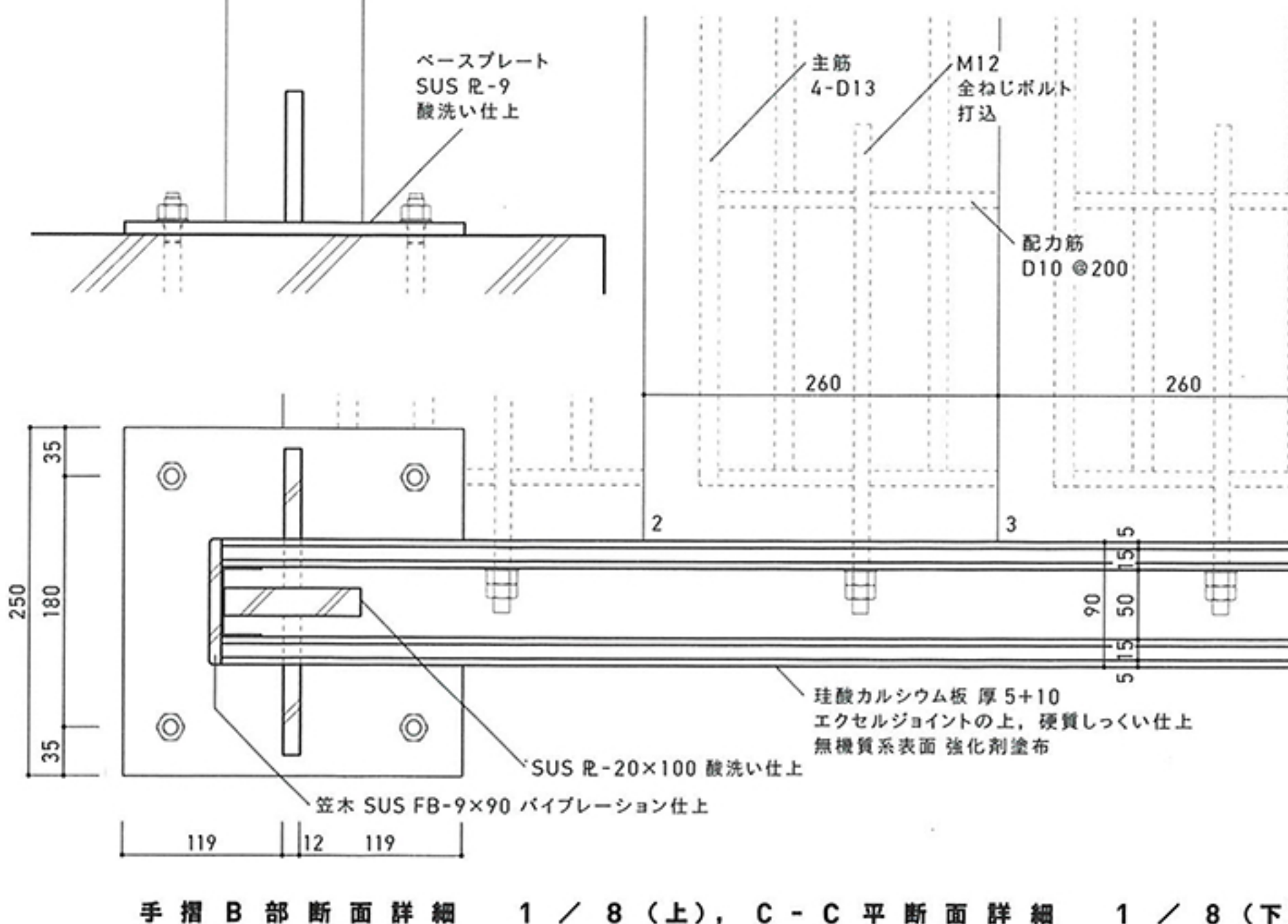
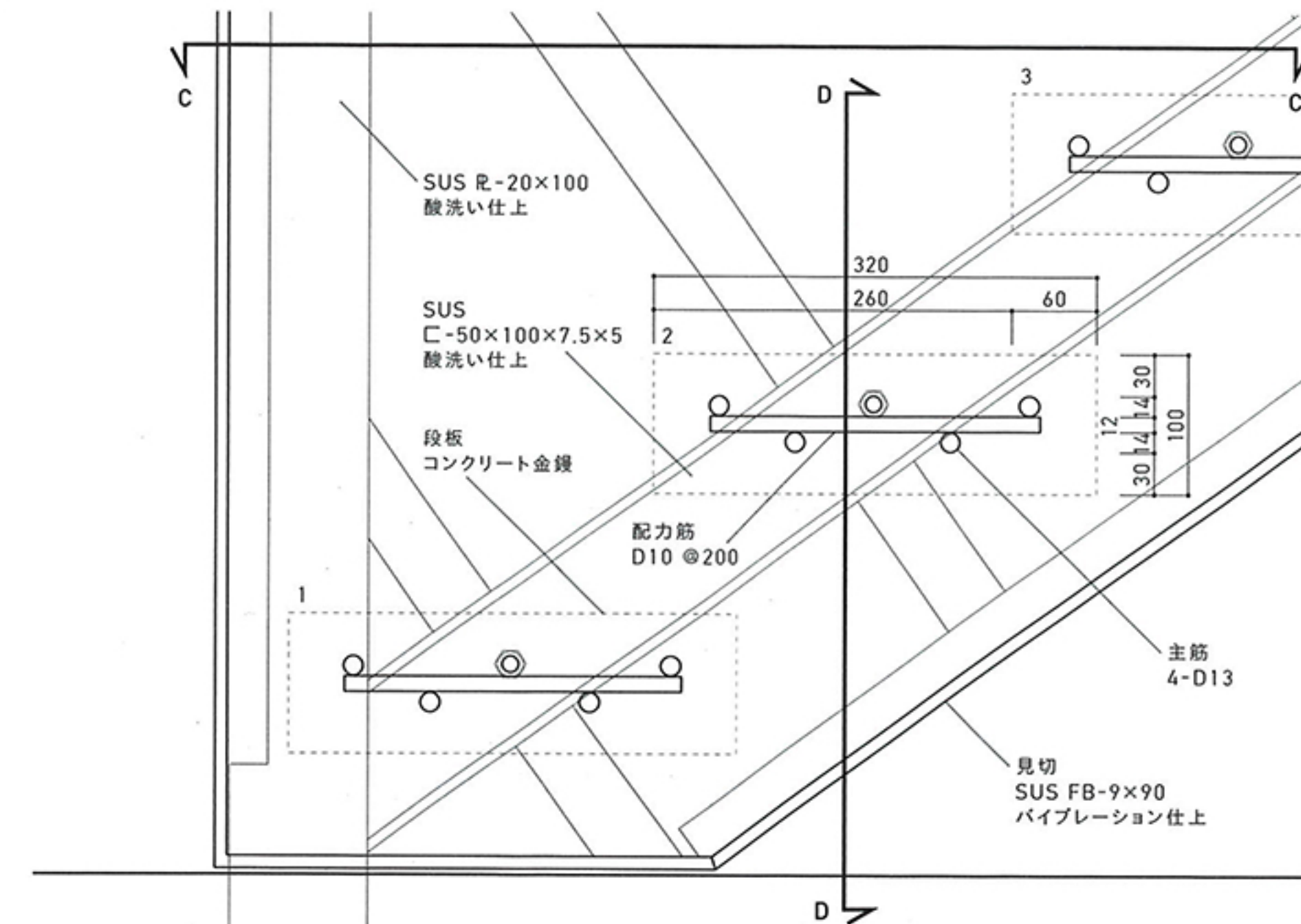
IN BETWEEN

by Yaita and Associates

施工：渡辺富工務店
 金属工事：サスプロ
 左官工事：大道左官
 構造：RC造
 規模：地上3階
 竣工：2021年4月
 所在：東京都大田区
 撮影：新建築写真部 (p68),
 矢板建築設計研究所 (p69上),
 小川重雄 (p69下)



この階段をデザインするにあたり、2階玄関への空間の動きを表現することが最も重要であると考え、飛壁と呼ぶ浮いたコンクリート壁に囲われた空間に面性の強い手摺壁を差し込むように設けることにした。躯体工事が半ば終わった段階で決まった案なので、軽い構造でつくることが必須の条件となっていた。選択された工法は、内部結露で錆を生じさせないよう、ステンレスの鉄骨をコンクリート段板に打ち込まれたボルトで固定し、そこにケイカル板を貼った上に弾性下地としつくいを塗りつけるという工法とした。塗装ではなくしつくいとしたのは、1枚の壁に見えるよう、上部の笠木との取合いを同面で仕上げるためである。(矢板久明)



NO 231

DETAIL

2022-JANUARY

WINTER ISSUE

MAGAZINE

FOR

ARCHITECTS

AND

ENGINEERS

ディテール

季刊 - 冬季号

2021年12月17日発行・発行(季刊)6冊

4頁(12月、4月、7月、12月17日発行・掲載)

9頁(9月12日)3頁(3頁掲載)

現代

特集

五折考

小特集

つながる

美術館

長野県立美術館

のディテール

宮崎浩+プランツアソシエイツ



SOGO

No.3